

衆議院災害対策特別委員会ニュース

平成 23.12.8 第 179 回国会第 4 号

12 月 8 日（木）第 4 回の委員会が開かれました。

1 災害対策に関する件（火山対策について）

- ・参考人から意見を聴取することに協議決定しました。
- ・参考人から意見を聴取し、質疑を行いました。

（参考人）東京大学名誉教授

火山噴火予知連絡会会長

特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構 環境・防災研究所所長

藤井敏嗣君

2 火山活動の観測監視及び調査研究体制等の充実強化に関する件

- ・市村浩一郎君外 5 名（民主、自民、公明、共産、社民、みんな）から提出された火山活動の観測監視及び調査研究体制等の充実強化に関する件の決議案について、提出者古川禎久君（自民）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを委員会の決議とすることに決しました。

（賛成 - 民主、自民、公明、共産、社民、みんな）

（質疑者及び主な質疑内容）

市村浩一郎君（民主）

- ・現在、地震については地震調査研究推進本部が、火山については火山噴火予知連絡会（以下、「予知連」という。）があるが、このように地震と火山の調査研究が分かれた体制になったのはいつからか伺いたい。
- ・火山噴火に対する備えが薄い状況を改善する必要があるにも関わらず、火山の調査研究のための人材の確保が十分ではないとのことだが、実際の状況はどうなっているのか。
- ・火山の観測体制を整えるには確実な予算措置が必要であることから、全会派あげて、第 4 次補正予算による措置の要望を検討しているが、観測体制整備のための予算の在り方についての見解を伺いたい。

古川禎久君（自民）

- ・本年 1 月に噴火した新燃岳について、今後どのような火山活動の可能性が予測されるか伺いたい。
- ・石黒耀氏の小説「死都日本」では、霧島連山の大规模なカルデラ噴火を想定し描いているが、専門家としてこの小説をどのように評価するか伺いたい。
- ・我が国の火山についての観測監視及び調査研究のための各機関における専門家の割合、予算の規模及び具体的な活動について伺いたい。

江田康幸君（公明）

- ・火山のマグマ活動を知ることができる GPS など観測機器の

整備の在り方と噴火予知を実現していく上での基礎研究の在り方を伺いたい。

- ・基礎研究において大学の研究機関と関係省庁が連携して一体的に火山の観測監視体制を整え、人材を育成することが必要と思われるが、所見を伺いたい。

赤嶺政賢君（共産）

- ・火山の噴火による被害の最小化を図る必要があるが、地震とは異なり観測体制が整っていないように思われることから、火山の観測体制を整えるのに障害になっているものがあるのか伺いたい。
- ・大学等の研究機関における基礎研究体制の現状はどうなっているのか、また、当面の課題としてどのようなものがあるのか伺いたい。

重野安正君（社民）

- ・九州の九重山においては、噴気や硫黄という現象が見られるが、このような現象は火山活動とどのように関係しているのか伺いたい。
- ・九重山は連山であり、多くの火山が連なっているが、それぞれの火山の観測体制はどのようになっているのか、また、今後どのような火山活動が予想されるのか伺いたい。
- ・雲仙・普賢岳の噴火の際には、前兆をとらえることができなかったが、これは観測監視体制に問題があったのか、十分な体制をとっていたが予測することができなかったのか、伺いたい。

柿澤未途君(みんな)

- ・火山活動の観測施設の新設には、必ずしも人の配置に伴う行政コストの増大を伴わないものなのかを伺いたい。
- ・予知連は、気象庁長官の私的諮問機関であるが、そもそも気象庁に火山の専門家がどの程度いるのか伺いたい。
- ・予知連に期待される役割は、住民の生命の保護や被害の軽減などの火山防災への貢献であると考えているが、火山防災に資する予知連の在り方ということについてどのように考えるか伺いたい。